

# セルリの栽培 (四)

大 岩 金

## セルリの生産

セルリの満足な生産を得ますには品種の優良なものを撰定する事が安全第一であります。栽培管理の不注意の爲にセルリの生産に失敗を來すといふ事も世に多く傳へられる所であります。

先に品種の優良と申しましたが、是に加ふるに良種子でなければなりません。それには何と申しましても信用のある種子商から求めるのが一番であります。

セルリの種子は一ヶ年以上経過しましたものは實際價值のないものとされて居りますが、若し何

かの理由で一ヶ年以上保存せねばならない場合には密閉する事の出来る錫の容器等に入れて置かねばなりません。この年を越した種子は發芽率が大幅減ずるとか、又病氣に侵され易いといふ事であります。

家庭園藝用としましては極少量あればよろしく歐洲地方で栽培しました場合は殆ど何れの地方でも充分に結實採種する事が出來ます。種子は極安價なものであります。特に歐洲で良好な種類としましては、第一にセルフ、ブランチングであります。

多くの地方でセルリ生産を天然の状態で分類し

て早生のもの即ち少数と晩生のもの即ち主なるものとの二つに分けます。

寒地に於けるセルリ栽培には室内で發芽させる必要があります。即ち屋内か、温室か、温床か、必要であります。

一般には晩生種は冷床或は露地に播種しても好しいのでありますが早生種は特別の設備が必要であります。

### 箱利用の育苗

屋内で播種する際或は又少量の播種の場合の如きは本方法を用ひて便利であります。

箱とは即ち浅いものでよろしく盆様のものも同様の目的で使用されます。そうして此の箱は又本畑に定植その他の際苗を運搬するに用ひられます。而して箱の底には排水が保證出来る様な孔を有する事が必要でありまして、箱に入れる土は壤土即ち上等の畑土でなければなりません。是に

は普通よく腐熟した堆肥と腐植土と砂土とを混合した土を丁寧混合して $1\frac{1}{2}$ インチ大の篩で篩つたものが望ましいのであります。

箱に土を入れた時には土は平でなければなりません。平にするには板片等で靜かに均らすのであります。

播種は二インチ位の距離を置いて極薄く條播します。覆土は最も薄い事が肝要でありまして、約 $1\frac{1}{8}$ インチ位にします。それは $1\frac{1}{4}$ インチ大の篩で靜かに前記の土壤を撒りかけましてその上を板片で靜かに叩いて少しかためましてから水分を與へます。此の際の給水には文字通りの如露を用ひますか、或は箱それ自身を靜かに水に浸しますのも良法であります。

それから後はその箱をなるべく室内の戸の近くに置いて一定の温度を保つ様に注意する事、土壤の表面に乾燥の徴ある毎に給水する事を怠つては

なりません。

一般に種子は播下後凡そ十四日を経過しますと發芽する筈でありますから、それから後は充分日光に直射させる事に注意すると同時に、日光の來る方向を換へる事を忘れてはなりません。一方向にのみ放置する時は海岸の松並木の様な苗が出来ます事は御承知であります。

發芽後一週間即ち本葉二——三枚を生じました頃間引か、他の箱か、冷床に移植するかして各苗の距離は二インチ位にして置きまして専ら幼苗の生育を計るのであります。

### 温床利用の育苗

時として温室の柵を利用する場合もありますがここでは温室に就て記述する事は避けまして温床に就て専ら記述致します。

セルリの幼苗時代に於きましては夜を通じて華氏五五度——六五度、日中で六五度——七五度の

間の温度を有する事が最も好ましい温度とされてをります。

### 温床の準備の注意

木框で圍ひ、普通堆肥を用ひて植物根に充分な熱量を與へるのが温床の一般的の形であります。

温床は常に南向が貴ばれます。そうして北側は家屋、納屋、板圍、生籬、等の保護物がある必要があります。保護物とは寒氣の來るのを防ぐ事でありませぬ。

寒地等では二月下旬——三月上旬頃の播種用として此の頃造る場合がよくあります。

温床は造つて直ぐは役にたちませぬから一定の時期を経てから播種せねばなりませんし、又播種後は苗が一定の大きさに生育する迄熱が續かなければなりません。そこで以下に二三の實用的の温床に就きまして記述致しますが、それはその場所の状態、地方の状況等に依りまして各々適合する

様に變形利用されたいのであります。

### 一時的溫床

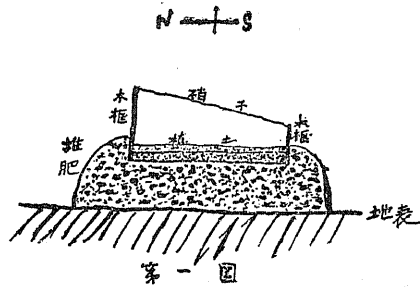
此の溫床は構造簡單でありまして、熱源は主として家畜舎から得られる厩肥を用ひます。

設置する場所は排水が好いといふ事が肝要でありまして其の場所へ前記の厩肥を高く積み踏み堅めるのであります。その小山の幅は八—九フィート、高さは一八—三〇インチ位にします。長さには適宜でよろしいのであります。

右の寸法は總て最も堅く積んだ場合の寸法であります。大體は圖で御覽になる様な型のものが出來上る譯であります。

ところで若し稍々長期間の熱を必要とする様な場合は落葉、或は藁等を厩肥に混じて堆積せねばなりません。

右の様にして熱源が準備出來ましたならば木框を圖示（第一圖）の様に置くのであります。無論



木框は床内の保温の目的に用ひるのでありますから圖でも御わかりの様に南方は北方より框の高さを低くして日光が框内即ち溫床の中に充分入る様にするのであります。

前記の南方が北方より低くすると申しましたが、其の寸法は大體四—六インチ位であります。して是は日光を多量に射入させますと同時に、この勾配は雨水の排除の目的にもなるのであります。（上部には硝子障子をちぎります。）

さて框の準備が整ひましたならば框の外部は堤狀に厩肥を圍ひまして框の中には植土を入れます。その厚さは約四インチ入れまして、其の上に

尙二インチ位の厚さに壤土を篩ひ込みまして使用します。

### 永久的温床

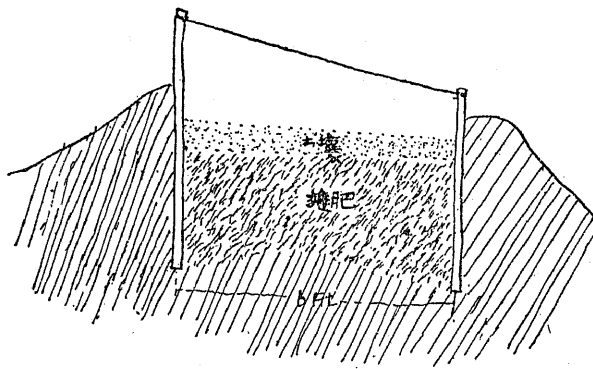
一時的に對する永久的といふ言葉でありまして眞の意味の永久ではありません。

温床に用ひます熱源は一般に永久的のものではありません。即ち堆、厩肥、其の他の有機物、熱湯、蒸氣、又は暖爐の煙、電氣等の如きものであります。

そこで所謂この永久的温床の熱源として厩肥を用ひます場合は地表より二四——三六インチ位の深さに掘つて凹を造ります。その底部は雨水或は給水が滲透する様な状態にしておかねばなりません。周圍は板（主に松柏科のもので保存に堪へるもの）石垣等で造ります。普通其の厚さは二インチ位あれば宜しいのであります。大體は略圖（第二圖）に示しました様なものであります。

### 温床の覆物

覆物としての硝子框の標準大きさは三——六フ



第二圖

イト位としますが其の材料は松柏科のものが用ひられます。然し要は安價にして保存年間の長い事でありませす。

その外の覆物は寒地及寒期の夜間は板、藁、麻布、粗布、又は敷物の古物、筵等を用ひます。或は又甚だ寒い場合には床上に藁とか軟かい堆肥の如き

ものを少量撒布する事が望ましいのであります。

### 温床の通氣及灌水

温床は好天氣の日には日光の射入で床内は大層温度が昇るから框の後方即ち北方を少々開けて通風を計り、日暮になればまだ暖かい中に日中開けておいた場所は閉めねばなりません。

灌水は晴天の朝一回のみする様にせねばなりません。曇天或は夕刻等に灌水しますと夜間に床面が氷結する危険を生ずる虞があります。

灌水後は日中に土壤(床面)及苗の葉等を充分通風する様にせねばなりません。濕氣過多の爲苗の枯死する様な事のない様注意を要します。

### 冷床の用法及構造並びに注意

冷床は前記温床よりもセルリ栽培に利用される場合は多いものです。而して冷床は寒地に於ては温床で早生作物苗を得たものの移植用として用ひ或は晩生作物は暖地の播種床として用ひます。

構造は一般に温床と同様でありますが唯熱源たる堆厩肥等は除きます。覆物としましても硝子の代りに木綿布を用ひる事もあります。

管理方法も温床の場合と同様適度の通風及灌水をする事等が必要であります。

そこでセルリを本圃に植ゑ出すには強健な苗を作つておかねばなりません。強健な苗を作りますには適度の通風を計る事、及日光に露出する事等が重要な事柄です。さうすれば適度の微風にも當る譯であります。然し寒地或は降霜等の虞ある時は覆物をする様に準備しておかねばなりません。

次に灌水の一部を制限する事も強健な苗を作る一要素であります。植物の生育を烈しく抑止する事は最も注意を要する事であります。

理想とします苗は、盛に生育すること。風土に慣れたものであること。移植の變動に抵抗し得る準備の具はつてゐること。

以上の様な條件を具備したものであります。